

公表

事業所における自己評価総括表 (保育所等訪問支援)

○事業所名	こころとからだの発達相談室いところ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 26日	～	令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 26	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 26日	～	令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6	(回答者数)	6
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月 26日	～	令和8年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 23	(回答者数)	20
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援と放課後等デイサービスが併設のため、子どもや保護者との連携が取りやすく、訪問先との情報共有を円滑に行うことができる。	保護者の希望と子ども本人の思いの両方を丁寧に聞き取り、それぞれの意向を大切にしながら支援の方向性を検討するよう心がけている。	保護者や子ども本人の思いをより丁寧に把握できるよう、面談や日々のやりとりを通して意向を共有する機会をさらに充実させていく。
2	訪問先で共有された課題や支援方法を、児童発達支援や放課後等デイサービスでの個別支援や小集団活動に反映することができ、事業所・家庭・園/学校をつなぐ一貫した支援につながっている。	訪問先の教育・保育の方針や日々の実践を尊重し、その場の文化や文脈を理解したうえで、適切なタイミングで助言や提案を行うよう意識している。	訪問先との連携をより深めるため、支援の意図や具体的な手立てについて分かりやすく共有し、共に支援を考える関係づくりを進めていく。
3	訪問先の先生方に事業所へ来所していただき、個別支援や小集団活動の様子を見ていただくことで、具体的な支援方法の共有や理解を深める機会となっている。また、動作法・視覚的支援・コミュニケーション支援など、事業所で大切にしている支援の視点を共有することにもつながっている。	訪問先の職員が事業所へ来所し、個別支援や小集団活動の様子を見学できる機会を積極的に設け、具体的な支援方法の共有につなげている。	事業所見学や情報交換の機会を引き続き設け、個別支援や小集団活動の実際を共有することで、子どもにとってよりよい支援環境づくりにつなげていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会や、保護者向けの研修・学びの場を十分に提供できていない状況がある。	保護者同士が情報交換できるよう、日々の面談や保護者同席の支援の中で相談や共有の機会を大切にしている。	保護者向けの学びや交流の機会を増やすため、保護者会やミニ勉強会などを計画的に実施していく。
2	事業所のホームページが未整備であるため、支援内容や活動の様子などの情報発信が十分とは言えない。	ホームページは未整備であるが、パンフレットやSNS、管駅機関への説明などを通して、事業所の取り組みや支援内容を伝えるよう努めている。	事業所の活動や支援の考え方を分かりやすく伝えるため、ホームページの作成や情報発信の充実を進めていく。
3	保育所等訪問支援の希望者が多く、訪問日程の調整に時間を要するなど、希望に十分対応しきれない場合がある。	保育所等訪問支援の希望にできるだけ応えられるよう、訪問先や保護者と相談しながら日程調整を行い、優先度を考慮しながら対応している。	保育所等訪問支援のニーズにより柔軟に対応できるよう、訪問体制やスケジュール調整の工夫を行い、連携体制の強化を図っていく。